

WebSAM DeploymentManager

Java実行環境構築手順書

—第 4 版—
2019 年 05 月

改版履歴

版数	改版日付	改版内容
1	2018/11	新規作成
2	2019/01	DPM0607-0002 に対応
3	2019/03	Java実行環境の内、推奨するものを記載 Oracle Javaの参照先を変更とライセンスに対する注意事項の追記
4	2019/05	AdoptOpenJDKのInstaller付きJREに対応

目次

1. Java実行環境の構築を行う前に	5
1.1. DPMサーバのバージョンの確認.....	6
1.2. イメージビルダ(リモートコンソール)のバージョンの確認.....	6
1.3. PackageDescriberのバージョンの確認.....	6
2. DPM Ver6.7(DPM0607-0002以降適用済み)以降の場合	7
2.1. AdoptOpenJDK 8/11	7
2.2. Oracle JDK 11	8
2.3. Oracle JRE 7/8(x86版)	8
3. DPM Ver6.7(DPM0607-0002以降未適用)以前の場合	9
3.1. AdoptOpenJDK 8	9
3.2. Oracle JRE 7/8(x86版)	9

商標について

- ・ WebSAMIは日本電気株式会社の登録商標です。
- ・ Microsoftは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・ JavaおよびすべてのJava関連の商標は、Oracle Corporationおよびその関連会社の登録商標です。
- ・ その他、記載の会社名および商品名は各社の登録商標または商標です。

はじめに

本書では、WebSAM DeploymentManagerをDPMと、WebSAM DeploymentManager Verx.xをDPM Verx.xと表記します。

DPMでは、イメージビルダとPackageDescriberを実行する場合にJava実行環境を必要とします。詳細は「ファーストステップガイド 2.1.2. DeploymentManagerのコンポーネント構成」を、DPM Ver6.12以前は「ファーストステップガイド 3. 動作環境」を参照してください。

DPM Ver6.7までは、Java実行環境の構築方法として「インストレーションガイド 1.2. インストール環境の確認と設定」で、DPM Ver6.12以前は「ファーストステップガイド 3. 動作環境」で、Oracle社のダウンロードサイトを紹介していました。

しかし、2019年1月から、このサイトからの商用利用向けのJava SE 8の無償でのアップデートリリースが終了となりました。また、Oracle JDK 11からはライセンス条項が、Oracle Technology Network License Agreement for Oracle Java SEに変更となり、このサイトから無償での商用利用ができなくなりました。

本手順書は、2019年1月以降のJava実行環境を構築する際の手順について説明します。

注:

- DPM のファーストステップガイド、インストレーションガイドは以下の製品サイトから入手できます。
<https://jpn.nec.com/websam/deploymentmanager/>
→ 「ダウンロード」を選択

1. Java 実行環境の構築を行う前に

Java実行環境は、DPMサーバ、イメージビルダ(リモートコンソール)で、以下の機能を使用する場合

- OSクリアインストール用パラメータファイルを作成する。
- ディスク複製OSインストール(Linux)用情報ファイルを作成する。

またはPackageDescriberを使用する場合に必要となります。

「1.1. DPMサーバのバージョンの確認」、「1.2. イメージビルダ(リモートコンソール)のバージョンの確認」、「1.3. PackageDescriberのバージョンの確認」に従って、それぞれのコンポーネントのバージョンを確認してください。

Java実行環境対応表

Java実行環境	DPM Ver6.7(DPM0607-0002以降適用済み)以降	DPM Ver6.7(DPM0607-0002以降未適用)以前
AdoptOpenJDK 11	○(推奨)	×
AdoptOpenJDK 8	○	○(推奨)
Oracle JDK 11	○	×
Oracle JRE 7/8 (x86版)	○	○

○: サポート

×: 未サポート

1.1. DPM サーバのバージョンの確認

以下の手順でDPMサーバのバージョンを確認してください。

- 1) DPMサーバをインストールしているマシンにログインします。
- 2) 「スタート」メニューから「コントロールパネル」→「プログラムと機能」を開きます。
- 3) 「DeploymentManager(DPMサーバ)」の「バージョン」を確認します。
「DeploymentManager(DPMサーバ)」が存在しない場合は、以下のレジストリを確認します。

レジストリキー:

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Uninstall\{B9FC2211-6E29-4EA9-AB3E-157BCB7DA5E2}
```

名前: DisplayVersion

バージョンが"6.70.002"以上の場合は、「2. DPM Ver6.7(DPM0607-0002以降適用済み)以降の場合」を参照してください。

バージョンが"6.70.001"以下の場合は、「3. DPM Ver6.7(DPM0607-0002以降未適用)以前の場合」を参照してください。

1.2. イメージビルダ(リモートコンソール)のバージョンの確認

以下の手順でイメージビルダ(リモートコンソール)のバージョンを確認してください。

- 1) イメージビルダ(リモートコンソール)をインストールしているマシンにログインします。
- 2) 「スタート」メニューから「コントロールパネル」→「プログラムと機能」を開きます。
- 3) 「DeploymentManager(イメージビルダ)」の「バージョン」を確認します。

バージョンが"6.70.002"以上の場合は、「2. DPM Ver6.7(DPM0607-0002以降適用済み)以降の場合」を参照してください。

バージョンが"6.70.001"以下の場合は、「3. DPM Ver6.7(DPM0607-0002以降未適用)以前の場合」を参照してください。

1.3. PackageDescriber のバージョンの確認

以下の手順でPackageDescriberのバージョンを確認してください。

- 1) PackageDescriberをインストールしているマシンにログインします。
- 2) 「スタート」メニューから「コントロールパネル」→「プログラムと機能」を開きます。
- 3) 「DPM PackageDescriber」の「バージョン」を確認します。

バージョンが"6.70.001"以上の場合は、「2. DPM Ver6.7(DPM0607-0002以降適用済み)以降の場合」を参照してください。

バージョンが"6.70.000"以下の場合は、「3. DPM Ver6.7(DPM0607-0002以降未適用)以前の場合」を参照してください。

2. DPM Ver6.7(DPM0607-0002 以降適用済み)以降の場合

以下の製品で構築するJava実行環境をサポートします。

- AdoptOpenJDK 11 (推奨)
- AdoptOpenJDK 8
- Oracle JDK 11
- Oracle JRE 7/8(x86版)

2.1. AdoptOpenJDK 8/11

以下の手順により、管理者権限を持つユーザでAdoptOpenJDK 8/11をダウンロードして、インストールしてください。

- (1) AdoptOpenJDK 8/11 の Installer 付き JRE をダウンロードします。
 - 1) 以下の AdoptOpenJDK のサイトを開きます。
<https://adoptopenjdk.net/index.html>
 - 2) [Release Archive & Nightly Builds] をクリックします。
 - 3) Version と JVM を選んだ後、Windows x64 対応の Installer 付き JRE をダウンロードします。
どちらの JVM を選択しても DPM の動作には影響ありません。
- (2) AdoptOpenJDK 8/11 をインストールします。

(1)でダウンロードしたファイルを任意のフォルダで実行します。
インストールが始まりますので、ご使用の環境に合わせて設定します。
カスタムセットアップ画面の「Associate .jar」は「インストール」(既定値)を選択してください。

注:

Installer 付きでなく Binary 版を使用する場合は、(2)を以下に置き換えて設定します。

- (2) AdoptOpenJDK 8/11 を任意のフォルダに展開します。
例) C:¥OpenJDK11

コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行します。

```
> assoc .jar=jar_auto_file
```

```
> ftype jar_auto_file="<展開したフォルダ>¥xxxx¥bin¥javaw.exe" -jar "%1" %*
```

※ "xxxx"には、数値を含んだ文字列が入ります。

```
例) ftype jar_auto_file="C:¥OpenJDK11¥jdk-11+28¥bin¥javaw.exe" -jar "%1" %*
```

2.2. Oracle JDK 11

DPM は、Oracle JDK 11 で構築した Java 実行環境での動作をサポートします。
本環境を構築する場合は、<https://www.oracle.com/jp/java/> 以下から、オラクル社の公開情報やライセンス規約から商用利用についての情報を確認してください。

2.3. Oracle JRE 7/8(x86 版)

DPMは、Windows x86版で構築したJava実行環境での動作をサポートします。
現在は、Java SE 8の無償でのアップデートリリースが終了していますので、アップデートが可能な環境(他の章を参照してください)への移行をお勧めしますが、本環境でもDPMの動作は継続してサポートします。
(JREに起因する問題を除く)
そのため、アップグレード前の環境を継続して使用することも、既にお持ちのOracle JRE 7/8を使用して新規に環境を構築することも可能です。

3. DPM Ver6.7(DPM0607-0002 以降未適用)以前の場合

以下の製品で構築するJava実行環境をサポートします。

- AdoptOpenJDK 8 (推奨)
- Oracle JRE 7/8(x86版)

3.1. AdoptOpenJDK 8

以下の手順により、管理者権限を持つユーザでAdoptOpenJDK 8をダウンロードして、インストールしてください。

(1) AdoptOpenJDK 8 の Installer 付き JRE をダウンロードします。

- 1) 以下の AdoptOpenJDK のサイトを開きます。
<https://adoptopenjdk.net/index.html>
- 2) [Release Archive & Nightly Builds]をクリックします。
- 3) Version と JVM を選んだ後、Windows x64 対応の Installer 付き JRE をダウンロードします。
どちらの JVM を選択しても DPM の動作には影響ありません。

(2) AdoptOpenJDK 8 をインストールします。

(1)でダウンロードしたファイルを任意のフォルダで実行します。
インストールが始まりますので、ご使用の環境に合わせて設定します。
カスタムセットアップ画面の「Associate .jar」は「インストール」(既定値)を選択してください。

注:

Installer 付きでなく Binary 版を使用する場合は、(2)を以下に置き換えて設定します。

(2) AdoptOpenJDK 8 を任意のフォルダに展開します。

例) C:¥OpenJDK8

コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行します。

```
> assoc .jar=jar_auto_file
```

```
> ftype jar_auto_file="<展開したフォルダ>%xxxx%bin¥javaw.exe" -jar "%1" %*
```

※ "xxxx"には、数値を含んだ文字列が入ります。

```
例) ftype jar_auto_file="C:¥OpenJDK8¥jdk8u192-b12¥bin¥javaw.exe" -jar "%1" %*
```

3.2. Oracle JRE 7/8(x86 版)

DPMは、Windows x86版で構築したJava実行環境での動作をサポートします。

現在は、Java SE 8の無償でのアップデートリリースが終了していますので、アップデートが可能な環境(他の章を参照してください)への移行をお勧めしますが、本環境でもDPMの動作は継続してサポートします。

(JREに起因する問題を除く)

そのため、アップグレード前の環境を継続して使用することも、既にお持ちのOracle JRE 7/8を使用して新規に環境を構築することも可能です。

WebSAM DeploymentManager
Java実行環境構築手順書

—第4版—

2019年05月